

『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

宮崎県立〇〇高等学校 英語科教諭 〇〇〇〇

< 研究協議における先生方からの御感想、御意見、御質問 (一部抜粋) >

ライブ感

即興的なやり取りではライブ感が生まれ、生徒の感情が動き、良いと思いました。

書くこと

書くという行為は自身の主義、内面、主張等を表現できる為、改めて良いと感じました。

スクリーン遷移

プロジェクターで写真を示す際は、動かさずにシンプルに示した方が良いと思いました。動く写真の視覚効果は強く、生徒が集中して発表内容を評価できない可能性があるからです。

(演出面の視覚効果が高いと考え、写真を動かしましたが、評価を行う際は逆効果であると感じました。次回以降の発表では写真の提示のみ行おうと思います。)

評価項目

contents の評価項目がなかったようですが、その意図は何ですか？(2学期期末パフォーマンステストで contents については評価する予定です。今回のスキットでは delivery の部分に重きを置いていた為、あえてコンテンツの評価項目は外しました。)

生徒対応

教室後方で、集中力が持続しない(多動性の?)生徒がいましたが、普段の対応はどうされていますか？(心因性の病気を抱えていますので、個別指導を行いながら対応しています。)

レッスンの位置

年間指導計画における本時のレッスンの位置を教えてください。(①研究公開授業が10月末に行われること。②指導過程の授業よりも、その成果を発表する授業スタイルの方が本事業の趣旨に合うこと。③9月中旬に行ったスキットに対する生徒の反応や取組が良かったこと。上記3点を鑑み、年間指導計画を軌道修正し、本時のレッスンを実施しました。パイロット教員の公開授業日と年間授業計画の再考&再調整は今後の課題になるかと思われます。)

フィードバック

時間が許せば、各発表の後にフィードバックを行うと、生徒が発表を瞬時に振り返ることができ、良いと感じました。

< 授業実践を行う上での留意点 >

綿密な授業計画

年間指導計画を軌道修正できる柔軟さ

生徒の特性の見極め

身に付けさせたい力の明確化

データ>分析>情報>体系化>知識>実行>知恵